

4 阿賀野市の公共交通の計画体系

4.1 阿賀野市の公共交通の課題の整理

これまでの阿賀野市の現況整理、アンケート調査、上位関連計画の整理、総合連携計画の評価から導き出される阿賀野市の公共交通に関する課題を以下に整理する。

課題		現況	
(1) 市内公共交通網の利便性向上	人口	人口の分布	○平野部の全域に集落が点在している。(p. 4) ○市営バスは人口が少ない地区においても運行しており、市内の集落を網羅するように運行している。(p. 4)
	主要施設の分布		○市内の主要施設(学校、医療施設、介護施設、商業施設、行政施設、コミュニティ施設、観光施設)はバス路線の沿線に立地しており、バスによる移動が可能である。(p. 11~p. 16)
	公共交通の状況	市営バス	○市営バスは各集落を結び、水原から安田、京ヶ瀬、笹神地域へと広がる放射状の運行を行っている。(p. 21) ○起終点は主要な経由地として各地域の拠点となっている。(p. 21) ○市営バスの運行路線の再編により一部路線の運行ルートが複雑になった。(p. 34) ○運行本数は平成 21 年と比較して維持している。(p. 36) ○市営バスの利用者人数、運賃収入は減少傾向にある。(p. 28~30)
		民間路線バス	○市役所と保田車庫前をつなぐ市役所-保田車庫前線が運行されている。(p. 21、25) ○運行本数は平成 21 年と比較して減少している。(p. 36)
	利用者ニーズ ・改善要望調査		○公共交通を利用した外出目的は通勤、通学、通院、買い物等多様である。(p. 43) ○住民はバスに対し「土日祝日の運行やわかりやすい情報提供」の改善要望が多い。(p. 45、49) ○住民、利用者ともに市営バス、新潟交通路線バスの運行回数の不満度が高い。(p. 46、57~58) ○住民、利用者ともに鉄道とバスの接続時間の改善要望が多い。(p. 48)
	総合計画	基本事業	○「市内の交通手段の確保」を掲げている。(p. 71)
	総合連携計画	目標	○「高齢者や学生など誰もが利用しやすい公共交通の構築」を掲げている。 ・市営バスは住民ニーズにあわせた変更を行いながら路線本数、運行本数を維持し、容易に利用できる生活交通手段を確保してきた。 ・しかし、近年は市営バスの利用者数が減少している。(p. 76)
		施策	○「公共交通の充実」を掲げている。 ・市営バスは住民ニーズにあわせた変更を行いながら路線本数、運行本数を維持し、容易に利用できる生活交通手段を確保してきた。 ・路線別カラーマグネットの作成やバス停標識の設置などにより市営バスの利用しやすさ、利便性が向上した。今後も継続していく必要がある。 ・土日運行は実証試験、慎重な検討の結果、寺社線の一部で日曜日の運行が開始された。 ・お盆、年末年始の運行については実証試験の結果、利用者数が低迷したがまちなか活性化への寄与を考慮し、検討が必要である。(p. 77)
		事業	○「市営バス(全路線)の運行の改善」を掲げている。 ・運行方法については自由乗降の試験運行や曜日限定の運行を導入の可能性を検討してきたが、引き続き検討が必要である。 ・運行経路、運行ダイヤの見直しによる利便性の向上やPR・啓発活動は今後も取り組む必要がある。 ・運賃に関する施策及び環境に配慮した運行の検討は着手できていない。 ・市営バス全体として利用者数の減少傾向が続いており施策の見直しが求められる。(p. 81)

課題	現況		
(2) 市外を結ぶ公共交通の確保	市外の流動		○阿賀野市は新潟市、新発田市、五泉市等の移動需要が多い。(p. 10)
	公共交通の状況	鉄道	○JR羽越本線が通っており、新津駅、新発田駅へ向かうことができ、新潟駅は新津駅でJR羽越本線からJR信越本線に乗り換えて向かうことができる。(p. 23) ○運行本数は総合連携計画策定年の平成21年と比較して維持している。(p. 35) ○水原駅の利用者数は減少傾向にある。(p. 23)
		民間路線バス	○阿賀野市と新潟市中心部をつなぐ新潟～水原線、新潟～沢海～京ヶ瀬営業所線が運行されている。(p. 21、25) ○阿賀野市と五泉市をつなぐ市役所-五泉営業所線が運行されている。(p. 21、25) ○阿賀野市と阿賀町をつなぐ市役所-石間中線が運行されている。(p. 21、25) ○運行本数は平成21年と比較して新潟～水原線、市役所～五泉営業所線はやや減少しており、市役所～石間中線は維持している。(p. 37) ○再編後の運行本数は再編前の平成21年当時に比べ、市役所-石間中線は維持し、市役所-五泉営業所線は減少した。(p. 37)
	利用者ニーズ ・改善要望調査		○通学の目的で最も多い外出先は「新発田市」、次いで「新潟市」が多い。(p. 43) ○住民、利用者ともに新潟交通路線バスの運行回数の不満度が高い。(p. 46、57～58)
	まち・ひと・しごと 創生総合戦略	課題・戦略	○「新たな生活・交流の拠点形成」を掲げている。(p. 74) ○「市外への交通手段の確保」を掲げている。(p. 74)
	総合連携計画	目標	○「市内外の交流促進に結びつく交通体系の整備」を掲げている。 ・阿賀野市と周辺市町を結ぶJR及び民間路線バスの運行本数を維持している。(p. 76)
		施策	○「幹線(バス、鉄道)の利便性向上」を掲げている。 ・朝7時台の増便及び新潟駅への直通化の要望をJRに行っているが、実現されていない。(p. 79)
		事業	○「路線バス(新潟～水原線を除く。)の運行の改善」を掲げている。 ・路線バスの再編については重複路線の統合、利用者数の少ない時間帯や土休日の運行取りやめなど運行の効率化を図ってきた。 ・この結果、市役所～五泉営業所線では利用者数が増加した。 ・また、時刻変更により利便性が向上し、運行の効率化が図られ運行欠損額の補填額も減少した。(p. 80)

課題	現況		
(3) 交通結節点の強化	公共交通の状況	鉄道	<ul style="list-style-type: none"> ○ J R 羽越本線が通っており、新津駅、新発田駅へ向かうことができ、新潟駅は新津駅で J R 羽越本線から J R 信越本線に乗り換えて向かうことができる。(p. 23) ○ 水原駅の利用者数は減少傾向にある。(p. 23)
		市営バス	<ul style="list-style-type: none"> ○ 市営バスは各集落を結び、水原から安田、京ヶ瀬、笹神地域へと広がる放射状の運行を行っている。(p. 21) ○ 市役所、安田、京ヶ瀬、笹神の各支所は、起終点や主要な経由地として各地域の拠点となっている。(p. 21) ○ 水原、あがの市民病院の停留所が交通結節点の役割を担う。(p. 21) ○ 阿賀野市内には水原駅、京ヶ瀬駅、安田インターの 3 ヶ所にパークアンドライド用の駐車場がある。(p. 21) ○ 市営バスの利用者人数、運賃収入は減少傾向にある。(p. 28～30)
		民間路線バス	<ul style="list-style-type: none"> ○ 阿賀野市と新潟市中心部をつなぐ新潟～水原線が運行されている。(p. 25) ○ 阿賀野市と五泉市をつなぐ市役所-五泉営業所線が運行されている。(p. 25) ○ 阿賀野市と阿賀町をつなぐ市役所-石間中線が運行されている。(p. 25) ○ 市役所と保田車庫前をつなぐ市役所-保田車庫前線が運行されている。(p. 21、25)
	利用者ニーズ ・改善要望調査		<ul style="list-style-type: none"> ○ 住民、利用者ともに鉄道とバスの接続時間の改善要望が多い。(p. 48)
	まち・ひと・しごと 創生総合戦略	課題・戦略	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「新たな生活・交流の拠点形成」を掲げている。(p. 74) ○ 「市外への交通手段の確保」を掲げている。(p. 74)
	総合計画	基本事業	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「市内の交通手段の確保」を掲げている。(p. 71) ○ 「市外への交通手段の確保」を掲げている。(p. 71)
	総合連携計画	目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「高齢者や学生など誰もが利用しやすい公共交通の構築」を掲げている。 ・ 市営バスは住民ニーズにあわせた変更を行いながら路線本数、運行本数を維持し、容易に利用できる生活交通手段を確保してきた。 ・ しかし、近年は市営バスの利用者数が減少している。(p. 76)
		施策	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「公共交通を活用したまちの活性化」を掲げている。 ・ あがの市民病院駐車場整備にあわせて、バス待ち環境を整備したことにより、病院利用者の利便性が向上した。ただし、利用者数の検証は今後行うこととする。(p. 78, 79) ○ 「公共交通の連携強化」を掲げている。 ・ 市営バスと鉄道及び路線バスの接続の確保については今後も利用者の目的にあわせて検討していくことが必要である。 ・ 五泉・石間方面の路線バスの再編にあわせ、安田地区利用者の高速バスへの接続を確保した。(p. 78) ○ 「幹線(バス、鉄道)の利便性向上」を掲げている。 ・ 市営バスと鉄道及び路線バスの接続の確保については今後も利用者の目的にあわせて検討していくことが必要である。(p. 79)

課題	現況		
(4) 地域の実情にあった運行の整備	人口	人口推移	○阿賀野市は人口減少が進んでいる。(p. 2~3)
		人口の分布	○平野部の全域に集落が点在している。(p. 4) ○市営バスは人口が少ない地区においても運行しており、市内の集落を網羅するように運行している。(p. 4)
	公共交通の状況	市営バス	○市営バスの利用者人数、運賃収入は減少傾向にある。(p. 28~30) ○年間の利用者人数は江端線、千唐仁線は増加傾向にあり、五頭温泉郷線、安田地域循環線、寺社線、神山線、駒林線、大室線は減少傾向にある。(p. 29~30)
		民間路線バス	○水原-保田車庫前線、水原-石間線、五泉営業所-大曲線は平成 26 年に市役所-保田車庫線、市役所-石間中線、市役所-五泉営業所線として再編された。(p. 37) ○再編後の運行本数は再編前の平成 21 年当時に比べ、市役所-石間中線は維持し、市役所-五泉営業所線は減少した。(p. 37)
	利用者ニーズ ・改善要望調査		○公共交通の利用者は高齢者、10 歳代が多くを占める。(p. 42) ○住民は「予約制の運行」、利用者は「運行日の減少」に抵抗感がある。(p. 47、50) ○旧寺社小学校区の住民は運行回数の増加、安野小学校区の住民はバス停上屋の整備の改善要望が多い。(p. 56)
	総合連携計画	目標	○「高齢者や学生など誰もが利用しやすい公共交通の構築」を掲げている。 ・市営バスは住民ニーズにあわせた変更を行いながら路線本数、運行本数を維持し、容易に利用できる生活交通手段を確保してきた。 ・しかし、近年は市営バスの利用者数が減少している。(p. 76)
		施策	○「需要に応じた運行方法の導入」を掲げている。 ・神山線で自由乗降区間の運行を試験的に実施した。利用者には好評だったが、安全面の確保に課題が残った。従前どおりの路線運行であるため、収支率の改善には寄与していない。引き続きデマンド運行等の検討が必要である。(p. 77)
		事業	○「路線バス(新潟~水原線を除く。)の運行の改善」を掲げている。 ・路線バスの再編については重複路線の統合、利用者数の少ない時間帯や土休日の運行取りやめなど運行の効率化を図ってきた。 ・この結果、市役所~五泉営業所線では利用者数が増加した。 ・また、時刻変更により利便性が向上し、運行の効率化が図られ運行欠損額の補填額も減少した。(p. 80) ○「市営バス(全路線)の運行の改善」を掲げている。 ・運行方法については自由乗降の試験運行や曜日限定の運行を導入の可能性を検討してきたが、引き続き検討が必要である。(p. 81)

課題	現況		
(5) 公共交通による交流人口拡大	人口	人口推移	○阿賀野市は人口減少が進んでいる。(p. 2、3)
	主要施設の分布		○市内の主要施設(学校、医療施設、介護施設、商業施設、行政施設、コミュニティ施設、観光施設)へはバス路線の沿線に立地しており、バスによる移動が可能である。(p. 11～p. 16)
	観光入込客数の推移		○観光入込客数は平成 24 年まで減少傾向が続いていたが、平成 25 年以降増加に転じている。(p. 17) ○五頭温泉郷は平成 22 年から 3 回連続で新潟県の観光地満足度調査で総合満足度 1 位を受賞、平成 28 年に国民保養温泉地に登録され、観光客の増加が期待される。(p. 18)
	総合連携計画	目標	○「市街地整備などに合わせた公共交通を運行することによるまちの活性化」を掲げている。 ・市街地循環線の試験運行では利用者数が低迷し、本格運行の検討には至らなかった。(p. 76)
施策		○「公共交通を活用したまちの活性化」を掲げている。 ・市街地循環線の試験運行では利用者数が低迷し、本格運行の検討には至らなかった。(p. 78～79) ○「商業施設等との連携」を掲げている。 ・市街地循環線の試験運行では利用者数が低迷し、本格運行の検討には至らなかった。商業施設との連携が課題である。 ・大型商業施設敷地内へ市営バスを乗り入れることによって利用者の利便性が向上した。(p. 78)	
(6) 公共交通への関心度向上	利用者ニーズ ・改善要望調査		○住民の約 8 割が市営バス、約 7 割が新潟交通路線バスを最近 1 年間利用していない。(p. 44) ○住民はバスに対し「わかりやすい情報提供」の改善要望が多い。(p. 45、49)
	総合連携計画	目標	○「公共交通の利用促進や環境にやさしい燃料の転換による環境負荷の軽減」を掲げている。 ・公共交通の利用促進啓発活動を行い、周知が図られた。(p. 79)
		施策	○「公共交通の充実」を掲げている。 ・路線別カラーマグネットの作成やバス停標識の設置などにより市営バスの利用しやすさ、利便性が向上した。今後も継続していく必要がある。(p. 77) ○「利用促進のための多様な情報の提供」を掲げている。 ・意識啓発活動については、広報誌への掲載や「お絵かきバス」の実施など継続的に取り組んでいる。 ・また、公共交通マップや時刻表の作成、配布を通じ公共交通の利用方法の周知に努めているほか、観光地の主要停留所に市営バスと鉄道の接続を掲示するなど観光客の利便性を高める取り組みを行っている。 ・一方、鉄道駅舎での情報提供環境が整備されていないことや掲示板の大型化など情報提供方法に改善の余地があるなど、取り組みに不十分な面もある。(p. 79)
	事業	○「市営バス(全路線)の運行の改善」を掲げている。 ・PR・啓発活動に関して広報誌への掲載をはじめ様々な施策を適宜実施しており、引き続き取り組む必要がある。(p. 81) ○「モビリティ・マネジメントの実施」を掲げている。 ・毎年、JR・路線バス等市内公共交通の時刻表も盛り込んだ冊子を作成、配布しているほか、商業施設や医療機関などへのバス時刻表や乗り場案内を掲示し、利用者が利用しやすい環境整備に努めている。 ・また、PR・啓発活動も、広報誌への掲載など様々な施策を適宜実施している。 ・しかしながら、公共交通の利用者は減少傾向にあり、さらなる充実及び施策の見直しが求められる。(p. 81)	

4.2 阿賀野市公共交通網形成計画の区域

- ・計画の区域は阿賀野市全域とする。また、市民の移動実態等を踏まえ、隣接する新潟市、新発田市、五泉市及び阿賀町を計画に関連する区域とし、これら自治体と必要に応じて調整及び協議のうえ、本計画で設定した施策に取り組むこととする。



図 計画対象区域

4.3 阿賀野市公共交通網形成計画の期間

- ・計画期間は、阿賀野市総合計画との整合を図り、平成29年度から平成32年度までの4カ年とする。

4.4 阿賀野市公共交通網形成計画の基本的方針

○阿賀野市公共交通網形成計画の基本的方針は、市の現況、上位・関連計画を考慮して、以下のように整理する。

表 阿賀野市公共交通網形成計画基本的方針とその背景

阿賀野市公共交通網形成計画 の基本的方針	方針の背景
<p>(1) 地域住民の自立した日常生活及び社会生活を確保する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通勤、通学、通院、買い物等に利用できる利便性の高い生活交通手段を確保する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・公共交通は住民の通勤、通学、通院、買い物等の日常生活に利用がされており、住民生活に欠かせないものである。住民の生活を守るために、利便性の高い公共交通を確保する必要がある。
<p>(2) まちの変化に対応した公共交通を整備する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人口減少、高齢化が進む中、まちの構造も変わりつつあり、公共交通も市が進める新たな生活・拠点づくりと連携し、運行ダイヤや運行方法などの運行体系を変化させた整備をすすめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人口減少、高齢化に伴い、公共交通の利用状況や利用者数の変化が予測される。現在、市営バスの利用者数は減少傾向にあり、市の財政負担が増加している。社会構造の変化により、利用者ニーズが低下する既存路線は減便、デマンド運行への転換を視野に入れた効率的な運行を行っていく必要がある。 ・また、あがの市民病院の新設、安田支所の建て替え、国道49号バイパスの整備など市民を支える道路や生活拠点の変化に公共交通として対応していく必要がある。
<p>(3) 観光等の地域間交流の促進を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商店街(中心市街地)、瓢湖、温泉施設等の商業・観光施設と他地域との交流を促進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・公共交通によって市内の商業施設、観光施設の利用が可能であり、利用者の確保、商店街や観光業の活性化の視点から、公共交通と商業、観光業者が連携して、交流促進していくことが求められる。
<p>(4) 公共交通に対する市民の理解を深めてもらう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公共交通の存続は利用の有無にかかわらず、公共交通の必要性を理解してもらう必要があり、市民に向けて積極的な情報発信、意識啓発活動をすすめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・公共交通を維持させていくためには、公共交通の必要性を利用者や利用が見込める人に限らず、市民全員に認識してもらう必要がある。

4.5 各公共交通の役割

○鉄道、民間路線バスは都市間移動の役割を担い、市営バスは市内の移動を支える役割を担う。鉄道やバスで対応できない市内の多様な移動需要については、タクシー等の交通手段がその役割を担うものとする。

表 各種公共交通の役割と位置づけ

位置づけ			交通手段	役割
都市間	市内	その他		
○	○		鉄道	・新潟市、新発田市との都市間移動、及び市内の地域間移動を支える役割を担う。
○			高速バス	・新潟市との都市間移動に加え、福島県の広域移動を支える役割を担う。
○	○		民間路線バス	・新潟市、五泉市等との都市間移動、及び市内の地域間移動を支える役割を担う。
	○		市営バス	・地域内の移動、市内中心部までの地域間移動を支える役割を担う。
		○	タクシー	・市内全域で高い移動サービスを提供し、比較的な小規模な移動需要を支える役割を担う。
		○	その他	・スクールバス、医療施設・介護施設の送迎などは上記の公共交通ではカバーできない特定の移動需要を支える役割を担う。

4.6 阿賀野市がめざす公共交通網

○市街地と新潟市、新発田市等他市町をつなぐ都市間移動は鉄道、高速バス、民間路線バスが担い、市街地から基幹集落、各集落への移動である地域間移動を市営バスが担う。そして、鉄道駅、高速バス停留所を鉄道、高速バスと市営バス各路線をつなぐ交通拠点として機能を強化、各種交通手段の接続を改善し、阿賀野市の公共交通網の形成をめざす。

市営バスその他の路線(主要3路線以外の路線)

- ・ デマンド運行等による効率化
 - ・ 地域拠点を經由した効率的でわかりやすい運行経路
 - ・ 接続改善による利便性の向上
- 等
→持続可能な公共交通へ

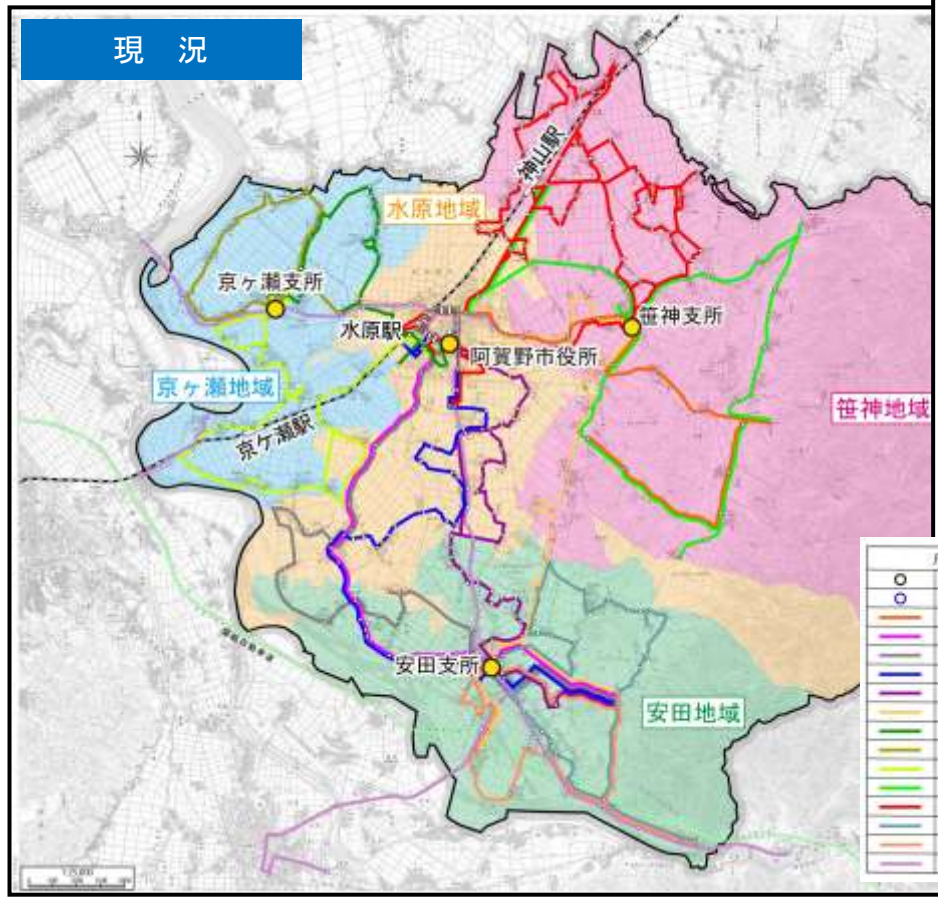


図 阿賀野市公共交通網のイメージ

4.7 阿賀野市公共交通網形成計画の計画体系

公共交通の課題

課題1：市内公共交通網の利便性向上

○市営バスは児童、生徒の通学、高齢者の通院、買い物など多様な目的で生活交通としての役割を担っている。また、市営バスの路線網は阿賀野市内の各集落が利用できるように構築されており、各集落から市内主要施設への移動が可能である。そのため、今後も各集落の住民にとってこの路線網を維持し、市民の移動を支えていく必要がある。

○また、市営バスは運行回数が少ないことが不満点、土日祝日の運行や運行回数の増加が利用者の改善要望として多い。そのため、運行ダイヤ、運行方法の見直し等を適宜行い、市営バスの利便性を向上させていく必要がある。

課題2：市外を結ぶ公共交通の確保

○鉄道の水原駅の利用者人数が減少傾向をはじめ、路線バスの運行本数も減少している。しかし、阿賀野市では通勤、買い物等では新潟市、通学では新発田市などとの流動が多く、五泉市、阿賀町を含め市外の市町村をつなぐ、鉄道、路線バス等の公共交通が必要である。

課題3：交通結節点の強化

○阿賀野市では、市営バスのほか、鉄道、民間路線バスの各種公共交通があり、乗り換えにより公共交通網を形成している。バスの改善要望として鉄道と市営バス、路線バスの接続改善やバス停上屋の整備を望む声も多い。移動の利便性を高めるため市営バスと各公共交通間との接続の改善や待合環境の改善を行い、結節点の機能の強化が必要である。

課題4：地域の実情にあった運行

○阿賀野市は集落が分散しており、効率的な運行が必要である。また、人口減少や高齢化の進行により、利用者数の低迷、通院するため午前中の利用に集中するなど地域の利用者数や利用状況の変化が予測される。さらに、児童、生徒の通学の移動手段の確保の必要性もある。今後、減便、予約制の運行の導入など地域の実情、利用者のニーズにあわせた運行が必要である。

課題5：公共交通による交流人口拡大

○人口減少による利用者の減少が予測される中、市内各所を巡ることができる市営バスの路線網を活かし、観光をはじめとした市外の方への利用を促進し、交流人口拡大に向けた公共交通の整備が必要である。

課題6：公共交通への関心度向上

○公共交通は利用者、非利用者を問わず、市民の支えによって成り立っている。住民からはわかりやすい情報提供を望む声が多いため、公共交通の維持のため関心をもってもらう必要がある。

公共交通の基本的方針

方針1：地域住民の自立した日常生活及び社会生活を確保する

○通勤、通学、通院、買い物等に利用できる利便性の高い生活交通手段を確保する。

方針2：まちの変化に対応した公共交通を整備する

○人口減少、高齢化が進む中、まちの構造も変わりつつあり、公共交通も市が進める新たな生活・拠点づくりと連携し、運行ダイヤや運行方法などの運行体系を変化させた整備をすすめる。

方針3：観光等や地域間交流の促進を図る

○商店街(中心市街地)、瓢湖、温泉施設等の商業・観光施設と市外との交流を促進する。

方針4：公共交通に対する市民の理解を深めてもらう

○公共交通の存続は利用の有無にかかわらず、公共交通の必要性を理解してもらう必要があり、市民に向けて積極的な情報発信、意識啓発活動をすすめる。

公共交通の目標像

「誰もが快適な生活を送れるまち 阿賀野市」の実現

目標

目標1：高齢者や学生など誰もが利用しやすい公共交通の構築

○高齢者の通院、買い物、学生の通学などの日常生活のほか市外からの観光などの多様な目的に対し、わかりやすく快適に利用でき、利便性の高い生活交通手段を構築する。

目標2：市内外の交流促進に結びつく交通体系の整備

○阿賀野市と新潟市、新発田市などを結ぶ市外の公共交通と市内の公共交通をつないで公共交通網を整備し、観光客など市外からの利用者にとっても利便性の高い公共交通を提供し、市外との交流を促進する。

目標3：市民と行政の協働により公共交通を維持

○市や公共交通の利用者だけでなく、利用することがない市民も公共交通を支える一員であることを認識してもらい、市民と行政の協働により公共交通を維持していく。

実施する施策